



## 甲子園浜の外来植物



## 甲子園浜外来植物観察会

6月17日(土)講師は水田光雄先生。兵庫県生物学会会員で、長く植物防疫の仕事に携わってこられ、『日本帰化植物写真図鑑第2巻』の編著者のお一人です。

## 外来植物とは

帰化植物(=外来植物)とは、「自然の営力によらず、人為的営力によって、意図的または非意図的に移入され、野生状態で見出される植物」です。平成16年制定の「外来生物法」で、「帰化」という言葉はヒトに用いられるべきで、それ以外の生物にはそぐわないとされました。でも先生は、慣れているので帰化植物と言っています、とのことでした。



甲子園浜自然環境センターを出てすぐ、ハマセンブリ、ヘラバヒメジョオン、メドハギ、ヒメヌカススキ、アレチノギク、ウラジロチチコクサというふうには、テキパキと植物の名前が出てきます。植物野帳にすべての名前を記入していきます。適宜「はい、それ採取」との指示が出ます。

セイタカアワダチソウに、ヒゲナガアブラムシとガンバイムシが付いています。「トリプル帰化」という

そうです。窪地のところでイグサと思っていたものが、茎を開いて、中が階段状になっているからコゴメイです、イグサは中が詰まっています、と説明がわかりやすく面白い。

## 甲子園浜の帰化率



シートの上に採取した植物を広げ、先生が名前を書いた付箋をつけます。帰化はピンク、在来はブルー。全体の割合がよくわかります。

記録した植物79種

類、そのうち帰化植物51種類。

結果は、帰化率(%) :  $51 \div 79 \times 100 = 64.55\%$

先生は、この結果でどうこういうわけではない、非常に厄介なものは駆除すればいいが、帰化種を排除してそこに在来種が来るというものでもない、上手に付き合うのがいいのです、と言われました。植物愛にあふれた楽しい観察会でした。

## アメリカネナシカズラとマダラケシツブゾウムシ

観察会でアメリカネナシカズラを持ち帰った参加者の和田さんが、7月4日虫こぶからマダラケシツブゾウムシが出てきましたと報告してくださいました。



アメリカネナシカズラとマダラケシツブゾウムシ(体長2mm)

# はまん婆のひとりごと

## ニホンスナモグリ

「なに？これっ！」初めて見たのは10年前の大阪湾生き物一斉調査であった。半透明・白に近いベージュ色。やさしく扱わねば壊れそうな柔らかい体だ。体長は6センチ、エビ・カニの仲間である。目立つ巣穴は30センチもの深さだ。以後10年間干潟だけで毎年確認できている調査メンバーの人気者だ。

今年初めて他の地点「磯地区」でも出現した。2004年の連続強台風でえぐられて砂が流出移動して砂泥の平らな海底になっていた場所から採集されたのだ。新しい生息場所ができてうれしい限りである。 東山直美



### 甲子園浜12ヶ月展を開催します

一般公募作品による、1月から12月までの

甲子園浜の姿を、月ごとに展示します

とき：10月3日（火）～9日（月）

ところ：西宮市立甲子園浜自然環境センター1階

### 同時開催

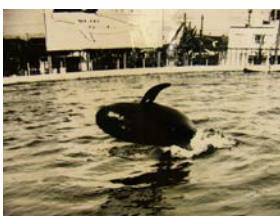
生物調査グループによる《甲子園浜の植物12ヶ月》

### 甲子園浜12ヶ月展作品募集

甲子園浜を表現したものであれば、写真、絵画、立体などジャンルは自由。新旧、既発表未発表も問わず。1月から12月までの何月をイメージした作品かを明記して事務局まで提出してください。

### 📷甲子園浜 懐かしの写真館📷

昭和3年甲子園、浜甲子園一帯で御大典記念国産新興大博覧会開催。その地に甲子園娯楽場がオープンし、昭和7年阪神パーク（初代）となりました。



ボートの池、お猿島、鯨の池、大汐湯などがあり、その遺跡が今も浜に残っています。

### 活動報告

6月17日 外来植物観察会 20名

7月17日 海浜清掃 90名 可燃ごみ360kg、不燃ごみ10kg（ヤマサ環境エンジニアリング調べ）



♥海の日 ブルーサンタになって海浜清掃♥

全国で行われた環境イベント、ブルーサンタに参加して清掃しました。対岸のウインドサーフィンの方たちも同じブルーサンタ姿になって同時刻に清掃。

7月23日 南甲小・青愛協生物学習会

8月27日 フジツボ学習会 12名

講師：塚本博一先生。写真は世界最大のフジツボ、ピコロコ。チリでは食用で、高さ10cmほど。



### 活動予定

9月24日（日）海浜清掃

10月3日（火）～9日（月祝）甲子園浜12ヶ月展

10月15日（日）第10回大阪湾生き物一斉調査結果発表会 於：大阪市立自然史博物館

11月5日（日）伊藤ハム合同クリーンアップ